

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 黄斑病、さび病、葉枯病、白斑葉枯病
3. 試験内容
- (1)実施場所 西目屋村 大秋 (2)実施農家 農事組合法人にしめや
- (3)実施支店 目屋支店 (4)担当者 天内 広二
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 白玉王
- 作型 栽培密度 畦幅 120 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 (10a当たり 15000 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月21日
- (6)試験面積 試験面積 30 a ( 試験区 15 a 対照区 15 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月18日	ファンタジスタ(顆粒水)	3,000	30 <sup>リットル</sup>	6月18日	シグナムWDG	1,500	30 <sup>リットル</sup>
	ベネビアOD	2,000	30 <sup>リットル</sup>		モスピラン(顆粒水)	2,000	30 <sup>リットル</sup>
	カスミンボルドー(水)	1,000	30 <sup>リットル</sup>		カスミンボルドー(水)	1,000	30 <sup>リットル</sup>

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
さび病	少ない	少ない	少ない
葉枯病	少ない	少ない	少ない

(2)葉害の発生

無

(3)農家の意見

両区とも病害の発生は少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等

実用性 対象区と同等

使いやすさ 対象区と同等

(3)その他特記事項



1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 黄斑病・さび病・葉枯病・白斑葉枯病

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市大和沢 (2)実施農家 やさい育苗センター

(3)実施支店 育苗係 (4)担当者 奈良 浩照

(5)概要

作物名 にんにく 品種 畑園試系

作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm

播種・定植日 播種 ・ 9月15日 (10a当たり 14800 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月19日

(6)試験構成

試験面積 30 a ( 試験区 15 a 対照区 15 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月3日	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000	150 <sup>リットル</sup>	5月3日	シグナムWDG	1,500	150 <sup>リットル</sup>
	アグリマイシン水和剤	1,000			アグリマイシン水和剤	1,000	
	ダイアジノン水和剤	1,000			ダイアジノン水和剤	1,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
さび病	少ない	少ない	少ない
葉枯病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

シグナムWDGは刺激的な匂いが気になるが、ファンタジスタは全く気にならない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 問題なし

実用性 有

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ類、アザミウマ類、ネギコガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 西目屋村 大秋 (2)実施農家 農事組合法人にしめや
- (3)実施支店 目屋支店 (4)担当者 天内 広二
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 白玉王
- 作型 畦幅 120 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 (10a当たり 15000 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月21日

(6)試験面積 試験面積 30 a ( 試験区 15 a 対照区 15 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月18日	ベネビアOD	2,000	30 $\frac{1}{10}$ g	6月18日	モスピラン(顆粒水)	2,000	30 $\frac{1}{10}$ g
	カスミンボルドー(水)	1,000	30 $\frac{1}{10}$ g		カスミンボルドー(水)	1,000	30 $\frac{1}{10}$ g
	シグナムWDG	1,500	30 $\frac{1}{10}$ g		ファンタジスタ(顆粒水)	3,000	30 $\frac{1}{10}$ g

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

両区とも同等の効果が得られた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対象区と同等

実用性 対象区と同等

使いやすさ 対象区と同等

(3)その他特記事項

にんにく殺虫剤

## ベネビアOD

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 アブラムシ類・アザミウマ類・ネギコガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市大和沢 (2)実施農家 やさい育苗センター
- (3)実施支店 育苗係 (4)担当者 奈良 浩照
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 畑園試系
- 作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 ・ 9月15日 (10a当たり 14800 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月19日
- (6)試験構成
- 試験面積 30 a ( 試験区 15 a 対照区 15 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月11日	ベネビアOD	2,000	150 <sup>リットル</sup>	6月11日	モスピラン顆粒水和剤	2,000	150 <sup>リットル</sup>
	アグリマイシン水和剤	1,000			アグリマイシン水和剤	1,000	
	シグナムWDG	1,500			シグナムWDG	1,500	

#### 4. 試験結果

##### (1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない

##### (2)薬害の発生

無

##### (3)農家の意見

登録も広くとてもいい農薬

#### 5. 評価

##### (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

##### (2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 有

使いやすさ 同等

##### (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認

2. 対象病害虫 アザミウマ類・ネギコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 藤崎町中野目 (2)実施農家 藤崎営農組合

(3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介

(5)概要  
作物名 にんにく 品種 白玉王

作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm

播種・定植日 定植 ・ 9月22日 (10a当たり 14800 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月26日

(6)試験構成  
試験面積 80 a ( 試験区 50 a 対照区 30 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月22日	ディアナ (SC)	2,500	250 <sup>リットル</sup>	5月22日	ハチハチ (乳)	1,000	250 <sup>リットル</sup>
	アグリマイシン (水)	1,000			アグリマイシン (水)	1,000	
	アミスター20 (F)	2,000			アミスター20 (F)	2,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	無	無	無
ネギコガ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 問題なし。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 アザミウマ類、ネギコガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 弘前市大和沢 (2)実施農家 やさい育苗センター
- (3)実施支店 育苗係 (4)担当者 奈良 浩照
- (5)概要
- 作物名 にんにく 品種 畑園試系
- 作型 栽培密度 畦幅 160 cm 株間 15 cm
- 播種・定植日 播種 ・ 9月15日 (10a当たり 14800 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 6月19日
- (6)試験構成
- 試験面積 30 a ( 試験区 15 a 対照区 15 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
5月23日	ディアナSC	2,500	150 <sup>リットル</sup>	5月23日	ハチハチ乳剤	1,000	150 <sup>リットル</sup>
	アグリマイシン水和剤	1,000			アグリマイシン水和剤	1,000	
	テーク水和剤	600			テーク水和剤	600	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない
ネギコガ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果 問題なし

実用性 有

使いやすさ 同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 百沢字裾野 (2)実施農家 小田桐 浩治

(3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 下山 喜美

(5)概要  
作物名 とうもろこし 品種 恵味

作型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 (10a当たり 2500 本)

マルチ使用 無 収穫始め 8月3日

(6)試験面積 試験面積 100 a ( 試験区 50 a 対照区 50 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a <sup>3</sup> 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a <sup>3</sup> 散布量
7月15日	ディアナSC	5,000	200 <sup>リットル</sup>	7月15日	アフーム乳剤	2,000	200 <sup>リットル</sup>
	モスピラン(顆粒水)	4,000			モスピラン(顆粒水)	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	多い	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 新たな系統の農薬として基準防除に取り入れたい

使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項





1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 佐藤 好和

(3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 下山 喜美

(5)概要  
作物名 とうもろこし 品種 恵味

作型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 5月25日 (10a当たり 2500 本)

マルチ使用 無 収穫始め 8月20日

(6)試験面積 試験面積 100 a ( 試験区 50 a 対照区 50 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a <sup>3</sup> 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a <sup>3</sup> 散布量
7月18日	ディアナSC	5,000	200 <sup>リットル</sup>	7月18日	フェニックス(顆粒水)	4,000	200 <sup>リットル</sup>
	モスピラン(顆粒水)	4,000			モスピラン(顆粒水)	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	多い	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 新たな系統の農薬として基準防除に取り入れたい

使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項



1. 試験目的 防除効果確認

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 佐藤 好和

(3)実施支店 佐藤 好和 (4)担当者 下山 喜美

(5)概要  
作物名 とうもろこし 品種 恵味

作型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 5月21日 (10a当たり 2,500 本)

マルチ使用 無 収穫始め

(6)試験構成  
試験面積 100 a ( 試験区 50 a 対照区 50 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
7月8日	ヨーバルフロアブル	5,000	200 <sup>リットル</sup>	7月8日	フェニックス(顆粒水和剤)	4,000	200 <sup>リットル</sup>
	ウララDF				ウララDF	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	多い	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 あり

使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果確認

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 百沢字裾野 (2)実施農家 齊藤 稔幸

(3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 下山 喜美

(5)概要  
作物名 とうもろこし 品種 恵味

作型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 5月23日 (10a当たり 2,500 本)

マルチ使用 無 収穫始め 8月18日

(6)試験構成  
試験面積 0 a ( 試験区 a 対照区 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月23日	ヨーバルフロアブル	5,000	200 <sup>リットル</sup>	7月23日	フェニックス(顆粒水和剤)	4,000	200 <sup>リットル</sup>
	モスピラン(顆粒水)	4,000			モスピラン(顆粒水)	4,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	多い	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 あり  
実用性 あり  
使いやすさ 対象区と同等のため

(3)その他特記事項

## 1. 試験目的 効果確認

## 2. 試験内容

- (1)実施場所 藤崎町 柏木堰 (2)実施農家 工藤 理絵
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 鳴海 清志郎
- (5)概要  
作物名 ピーマン 品種 京まつり  
作型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm  
播種・定植日 定植 ・ 5月21日 (10a当たり 1100 本)  
マルチ使用 有 収穫始め 7月2日

## (6)試験構成

試験面積 8 a ( 試験区 4 a 対照区 4 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月20日	トルキヤップ	1,000	20 $\frac{g}{a}$				
6月30日	トルキヤップ	1,000	25 $\frac{g}{a}$				
7月11日	トルキヤップ	1,000	25 $\frac{g}{a}$				
7月21日	トルキヤップ	1,000	30 $\frac{g}{a}$				

## 3. 試験結果

## (1)生育状況

【試験区】 良好

【対照区】 良好

## (2)収穫状況

【試験区】 良好

【試験区】 良好

## (3)農家の意見

散布時にはシナモンの香りがして良い気分散布できた。無散布区との差はあまり感じられなかった。

## 4. 評価

## (1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	2	3	2

## (2)評価の理由

施用効果 散布効果があったのか分からなかったため。

実用性 よく分からなかったため。

使いやすさ 一般の葉面散布剤と同様に溶けやすいため。

## (3)その他特記事項

## 1. 試験目的

効果確認

## 2. 試験内容

(1)実施場所 平川市 碓ヶ関 (2)実施農家 山田 尚光

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 寺田 佳洋

## (5)概要

作物名 ピーマン 品種 京まつり

作型 夏秋 栽植密度 畦幅 50 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 4月30日 (10a当たり 960 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月10日(個選)

## (6)試験構成

試験面積 7 a ( 試験区 4 a 対照区 3 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
5月15日	トルキヤップ	500	20 $\frac{g}{a}$	5月15日	液体ハイカルック	1,000	20 $\frac{g}{a}$

## 3. 試験結果

## (1)生育状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

## (2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

## (3)農家の意見

どちらも同等

## 4. 評価

## (1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

## (2)評価の理由

施用効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認

2. 対象病害虫 アザミウマ類, ジュウシホシクビナガハムシ

3. 試験内容

(1)実施場所 藤崎町矢沢 (2)実施農家 新谷 勝博

(3)実施支店 和徳支店 (4)担当者 泉 荘

(5)概要  
作物名 アスパラガス 品種 スーパーウェルカム

作型 ハウス立茎 栽植密度 畦幅 170 cm 株間 45 cm

播種・定植日 . (10a当たり 本)

マルチ使用 無 収穫始め 3月25日

(6)試験構成  
試験面積 6 a ( 試験区 3 a 対照区 3 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月17日	グレースシア乳剤	2,000	20 <sup>g</sup> / <sub>㎡</sub>	6月17日	モスピラン顆粒水溶剤	4,000	20 <sup>g</sup> / <sub>㎡</sub>

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ジュウシホシクビナガハムシ	普通	少ない	少ない
アザミウマ類	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

他の害虫にもよく効いていた。  
ローテーションの薬剤の一つとして使用したい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等のため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項



1. 試験目的 防除効果の確認。

2. 対象病害虫 アザミウマ類, ジュウシホシクビナガハムシ

3. 試験内容

(1)実施場所 大鰐町 苦木 (2)実施農家 成田 勝也

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 寺田 佳洋

(5)概要  
作物名 アスパラガス 品種 ゼンユウガリバー

作型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 10 cm

播種・定植日 . (10a当たり 1,470 本)

マルチ使用 有 収穫始め

(6)試験構成  
試験面積 10 a ( 試験区 5 a 対照区 5 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月15日	グレースシア乳剤	2,000	20 <sup>リットル</sup>	7月15日	ディアナSC	2,500	20 <sup>リットル</sup>
	フルピカフロアブル	2,000	20 <sup>リットル</sup>		フルピカフロアブル	2,000	20 <sup>リットル</sup>

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ジュウシホシクビナガハムシ	少ない	無	無
アザミウマ類	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

防除効果は同等だった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対象害虫が広いため。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市津賀野 (2)実施農家 成田 茂昭

(3)実施支店 和徳支店 (4)担当者 松岡 巧子

(5)概要  
作物名 ピーマン 品種 京まつり

作型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月8日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月15日

(6)試験構成

試験面積 4 a ( 試験区 2 a 対照区 2 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
8月11日	アクセルフロアブル	2,000	20 <sup>g</sup> / <sub>㎡</sub>	8月11日	コテツフロアブル	2,000	20 <sup>g</sup> / <sub>㎡</sub>
	アフエットフロアブル	2,000			アフエットフロアブル	2,000	

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

どちらも効いていたのでよかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 ローテーション剤として有効。

使いやすさ 対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認

2. 対象病害虫 オオタバコガ

3. 試験内容

(1)実施場所 弘前市糠坪 (2)実施農家 棟方 利明

(3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静

(5)概要  
作物名 ピーマン 品種 京まつり

作型 半促成 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日 定植 ・ 5月4日 (10a当たり 1100 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月14日

(6)試験構成

試験面積 4 a ( 試験区 2 a 対照区 2 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月27日	アクセルフロアブル	2,000	300 <sup>リットル</sup>	6月27日	コテツフロアブル	2,000	300 <sup>リットル</sup>
	アフエツフロアブル	2,000	300 <sup>リットル</sup>		アフエツフロアブル	2,000	300 <sup>リットル</sup>

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
オオタバコガ	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

どちらも効いていた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

散布効果 対照区と同等

実用性 ローテーション剤として有効

使いやすさ 対照区と同等

(3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシンクイガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 原ヶ平 (2)実施農家 小林 範芳
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島、あかつき
- 樹 齢 8年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開花日 4/20.4/19 収穫始め 8/20.8/6

- (6)試験構成  
試験面積 20 a ( 試験区 10 a 対照区 10 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月21日	オリオン水和剤	1,000	400 <sup>リットル</sup>	6月21日	エクシレル ( S E )	5,000	400 <sup>リットル</sup>
	マイコシールド	2,000			マイコシールド	2,000	
	チオノック ( F )	500			チオノック ( F )	500	

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	無	無	無

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

問題なく使用できた。りんごでも使用しているため、殺虫剤は分けなくてもいい

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

## (2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 ジアミド3回入っていたりするので、使用回数を減らせていいと思う

使いやすさ 対照区と同等のため。

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認。
2. 対象病害虫 モモシンクイガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 唐牛 (2)実施農家 小竹 重喜
- (3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 北山 銀之将
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 あかつき、川中島白桃
- 樹 齢 20年 栽植密度 7 m × 7 m 20 本/10a
- 開 花 日 あかつき4/23、川中23 収穫始め あかつき8/6、川中20
- (6)試験構成
- 試験面積 30 a ( 試験区 20 a 対照区 10 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
6月11日	オリオン水和剤	1,000	400 $\frac{g}{ha}$	6月11日	エクシレルS E	5,000	400 $\frac{g}{ha}$

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	少ない	少ない	少ない

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

特に問題はなかった。りんごでも使っているので安心して使えた。

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	4

## (2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 対照区と同等評価のため、ジアミド剤の回数を減らすためにも良い。

使いやすさ 対照区と同等のため。

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病、せん孔細菌病、果実赤点病
3. 試験内容
- (1)実施場所 糠坪 (2)実施農家 河越 一之
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島
- 樹 齢 9年 栽植密度 7 m × 8 m 本/10a
- 開花日 4月20日 収穫始め 8月22日
- (6)試験構成  
試験面積 20 a ( 試験区 10 a 対照区 10 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月30日	スターナ水和剤	1,000	300 <sup>リットル</sup>	5月30日	スターナ水和剤	1,000	300 <sup>リットル</sup>
	ペンコゼブ水和剤	600	300 <sup>リットル</sup>		チオノックF	500	300 <sup>リットル</sup>

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

差は感じられなかった。

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

## (2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 黒星病・せん孔細菌病・果実赤点病
3. 試験内容
- (1)実施場所 鬼沢 (2)実施農家 神 幸人
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島
- 樹 齢 12年 栽植密度 7 m × 7 20本/10a
- 開花日 4月20日 収穫始め 8月20日

## (6)試験構成

試験面積 10 a ( 試験区 5 a 対照区 5 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月29日	バリダシン5(液)	500倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$	5月29日	バリダシン5(液)	500倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$
	ペンコゼブ(水)	600倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$		チオノック(F)	500倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$
	ダイアジノン(水)	1000倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$		ダイアジノン(水)	1000倍	500 $\frac{\text{L}}{\text{ha}}$

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

チオノックー辺倒だから選択枝としてあったほうがいい。

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

## (2)評価の理由

散布効果 同等

実用性 同等

使いやすさ 同等

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 せん孔細菌病
3. 試験内容
- (1)実施場所 笹館 (2)実施農家 増田 剛
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島白桃
- 樹 齢 15 年 栽植密度 8 m × 8 m <sup>15.625</sup> 本/10a
- 開花日 4月20日 収穫始め 8月20日

## (6)試験構成

試験面積 10 a ( 試験区 5 a 対照区 5 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当 散布量
5月6日	I C ジンク水和剤	1,000	300 <sup>g/L</sup>	5月6日	アグリマイシン-100	1,500	300 <sup>g/L</sup>

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前 発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

昨年に比べて若干出たがそれでも少ない。

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	5	4

## (2)評価の理由

散布効果 あり

実用性 無機銅剤と違い混用の幅もある。

使いやすさ 無機銅剤と違い葉やSSの汚れが少ない。

## (3)その他特記事項

若干、元葉の黄変落葉は見られた。



1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 せん孔細菌病
3. 試験内容
- (1)実施場所 原ヶ平 (2)実施農家 小林 範芳
- (3)実施支店 弘前東支店 (4)担当者 三浦 湧太
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島、あかつき
- 樹 齢 8年 栽植密度 7 m × 7 m 本/10a
- 開花日 4/20.4/19 収穫始め 8/20.8/6

## (6)試験構成

試験面積 10 a ( 試験区 5 a 対照区 5 a )

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月16日	I C ジンク	1,000	350 <sup>リットル</sup>	5月16日	マイコシールド	2,000	350 <sup>リットル</sup>
	ダコニール1000(液)	1,000			ダコニール1000(液)	1,000	
	ダイアジノン(水)	1,000			ダイアジノン(水)	1,000	

## 4. 試験結果

## (1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

## (2)薬害の発生

無

## (3)農家の意見

問題なく使用できた。来年も試験したい。

## 5. 評価

## (1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

## (2)評価の理由

散布効果 対照区と同等のため。

実用性 開花期以降の抗生物質(アグリマイシン、マイコシールドあたり)の使用を減らせる

使いやすさ 高温時の散布は避けないといけない為、使用時期が絞られる

## (3)その他特記事項

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 モモシンクイガ
3. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町白子 (2)実施農家 田中 義信
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 佐藤 琉乃介
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島白桃
- 樹 齢 15年 栽植密度 7 m × 8 m 本/10a
- 開花日 4月20日 収穫始め 8月25日
- (6)試験構成
- 試験面積 60 a ( 試験区 40 a 無処理区 20 a )

試験区				対照区			
設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数	設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数
5月14日	コンフューザーR	200	50	—	無処理	0	0

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	設置後発生状況	設置後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5. 評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象害虫に対する実用性	総合評価
評価	3	4	3

(2)評価の理由

- 設置効果 効果は同等だったため
- 実用性 効果は同等だったため
- 使いやすさ 100本 / 10aの設置なので掛ける本数と手間が多い

(3)その他特記事項

フェロモントラップを設置しているが、捕獲数は0であった。

1. 試験目的 防除効果の確認
2. 対象病害虫 モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ
3. 試験内容
- (1)実施場所 糠坪 (2)実施農家 河越 一之
- (3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 成田 将平
- (5)概要
- 作物名 桃 品種 川中島白桃
- 樹 齢 9年 栽植密度 7 m × 8 m 本/10a
- 開 花 日 4月20日 収穫始め 8月22日
- (6)試験構成  
 試験面積 20 a ( 試験区 10 a 無処理区 10 a )

試験区				対照区			
設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数	設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数
5月18日	コンフューザーR	100	100		無処理	0	0

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	設置後発生状況	設置後被害状況	
		試験区	対照区
ナシヒメシンクイ	無	無	無
モモシンクイガ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5. 評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象害虫に対する実用性	総合評価
評価	4	4	4

(2)評価の理由

設置効果 良

実用性 良

使いやすさ 手間ではある

(3)その他特記事項

フェロモントラップを設置したが捕獲数は0であった。